

演題番号：C6

繰り返す角膜潰瘍に重度角膜浮腫が生じていた犬に瞬膜フラップのみにて治療出来た症例

○近藤 仁

こんどう動物病院

1. はじめに：重度の角膜浮腫の原因は角膜上皮・角膜実質・角膜内皮の障害部位により原因は様々であるが、角膜潰瘍、緑内障、ぶどう膜炎等によって起こることが知られており、特に高齢のダックスは内皮変性が主たる原因として知られており、進行する事で角膜の水泡が破裂し角膜潰瘍を繰り返す事が特徴である。この度当院において繰り返す角膜潰瘍と重度角膜浮腫を呈したミニチュアダックスフントの治療内容と経過について検討した。

2. 材料および方法：症例はミニチュアダックスフント、13歳8ヶ月齢、未避妊のメス。当院へ来る2ヶ月ほど前から、繰り返す角膜潰瘍の治療に苦慮していると紹介来院された。初診時に左眼の中央部に角膜潰瘍と輪舞からの血管新生、結膜充血、さらに角膜全体は混濁しており、超音波検査にて角膜厚3.8mmと重度に肥厚していた。右眼には角膜潰瘍は認めないものの、こちらも角膜厚1.5mmと肥厚していた。病変部のスワブ検査にて菌による感染症は否定された。最初の治療方針として角膜上皮の保護と安定の目的で重度な左眼のみ瞬膜フラップを選択し実施した。術後はセフメノキシムとヒアルロン酸0.3%点眼を両目に行った。また血液検査時にT4

が低めであったため、甲状腺ホルモン製剤の投与を術後1ヶ月後から行った。

3. 結果：瞬膜フラップを行った1ヶ月後に抜糸を行ったところ、角膜の透明性および潰瘍部分の改善が認められた。右眼は変化に乏しかった。飼い主からの提案によって歯周病の治療も行い、その後両目にヒアルロン酸製剤の点眼を継続する事で両目とも3ヶ月後には角膜の透明性が劇的に改善されていた。

4. 考察および結語：今回の症例では繰り返す角膜潰瘍と肉眼的所見では高齢のダックスフントで好発に認められる内皮変性に続発した病態と考えたが、詳しくお聞きすると、最初は濁った目では無かった事がわかり、他の外科的対応を検討したが、点眼麻酔だけで可能である瞬膜フラップ術を選択した。さらに1ヶ月後に飼い主からの提案にて歯周病治療も当院で実施した所、両目の透明性の改善が認められた。治療経過から、歯周病治療も相乗効果があったと考えられた。また甲状腺ホルモン製剤も状態安定に繋がった可能性も十分に考慮された。つまり今回の症例は高齢のダックスフントに頻繁に認められる内皮変性に伴う病態ではなく、全身状態が複雑に絡み合った結果であったと考えられた。